

# エコエリアやまがた推進コンクール2022 優秀賞（山形県農業協同組合中央会会長賞）

※掲載している情報は令和4年度時点のものです。

応募者	歌丸の里生産組合		
※応募者が団体の場合 代表者（役職名・氏名）	代表 寒河江 忠		
所在地・連絡先	〒993-0034 山形県長井市歌丸3766（有限会社 歌丸の里） TEL：0238-88-2893		
事務担当者の部署・氏名	代表 寒河江 忠		
応募タイトル	組合は地域の米づくりのプロデューサー！ 「結い」の精神で環境にやさしく良食味な米の産地へ		
栽培品目	水稲		
経営面積 （うち、オガニック・エコ農業に取り組む面積）	200ha （特別栽培185ha）	構成員の 人数	58人
各種認証の取得状況等	特別栽培認証（H17～） エコファーマー認証（H14～R3） 山形県トップブランド米の里 認定（H14） 山形セレクション認定（H18～）		
※取組があれば 環境保全型農業直接支払交付金 の取組状況	（有機の里づくり組合「ゆうき」として取組実施） 堆肥散布 14名 9,891a（令和4年度）		
販路先	（有）歌丸の里 ほか		

## 1. 取組の背景・経過等

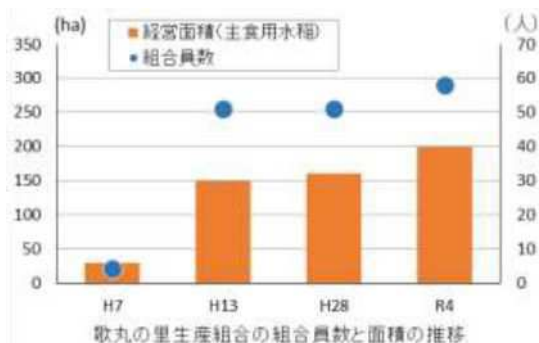
### （1）組合設立の動機

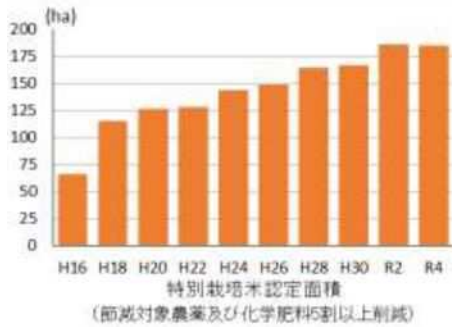
歌丸の里生産組合は、平成7年、転作大豆の共同作業と肥料農薬の共同購入のため、歌丸地域の生産者4人で設立しました。平成10年には、県の米づくり運動の「特A米チャレンジ実証」をきっかけに、良質な米を生産する産地づくりを進め有利販売に結び付けていきたいとの思いから、生産組合が地域の東ね役となり、組織的な米づくりに取り組んで来ました。

### （2）これまでの経営の概要

本地域では、先人の教えである「結い」（よえなし、困っていれば皆で助け合う）の精神が根付いており、作業が遅れていけば声をかけ、率先して手伝うなど、お互いを尊重しながらも支え合ってきました。

生産組合も、地域の農業者の営農の支えとなることを大きな目的としており、良食味、安全安心などの市場ニーズを捉え、地域全体での産地化をすすめる「地域のプロデューサー」的な役割を果たしてきました。この取り組みに賛同した組合員は地域全体に拡大し、当初4名だった組合員数は、平成13年には51名、面積で150haに増加、現在は58名で200haにまで拡大して、地域の中核を担う組織となっています。





安全安心な米づくりとして、当初から減農薬栽培に取り組んできましたが、平成 17 年に組織内の畜産農家 2 戸が堆肥の生産、散布を行う「有機の里づくり組合 ゆうき」を設立したことを機に、更なる土づくりを基本とした特別栽培米の生産を拡大し、地域全体で環境にやさしい米づくりを推進してきました。



## 2. 取組内容

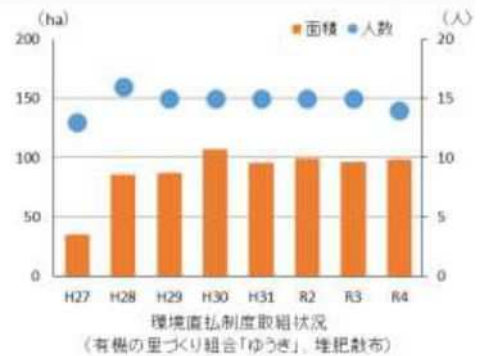
### (1) 土づくりの取組

良食味な米を作るためには、土の力を十分に引き出し、稲本来の力を発揮させることが重要と考えていることから、平成 12 年から土壤改良資材を共同で散布するなど、地域として土づくりに取り組んできました。

「有機の里づくり組合 ゆうき」設立以降は、生産組合と「ゆうき」が密接に連携して堆肥散布を推進しています。また、堆肥の成分分析を定期的に行うとともに、自分たちで土壤分析を行い、地力と堆肥の肥効を考慮した施肥設計を組合員に配布し、化学肥料の使用量の抑制を図っています。

### (2) 地球温暖化抑止や生物多様性保全などの取組

地域内で循環できる資源である「堆肥」の継続施用による土づくりと化学肥料使用量の抑制、また、水稻種子の温湯消毒を共同で行うなどにより農薬使用量の低減を図り、主食用水稻の9割以上で特別栽培を実践しています。



### (3) 効率的な生産に向けた取組

地域の堆肥散布を「有機の里づくり組合 ゆうき」が担うことで、堆肥散布作業の効率化、散布経費の低減が図られ、耕種農家の効率的な生産に結びついています。

平成 13 年に立ち上げた農業法人「(有)歌丸の里」が生産組合員の肥料や農薬を大量購入することで、資材コストの低減を図っています。また、生産された米は全て同社に出荷するため、出荷コストの削減につながっています。

### (4) 地域内外・他業種と連携した安定出荷・販路確保の取組

米の集荷販売は、「(有)歌丸の里」が担うことで、ロットの確保につながっています(※「まごころ栽培米」「歌丸の里米」など独自ブランドとして販売)。

平成 28 年から、東邦物産(株)(現 三井特産アグリフーズ(株))と、胚芽の取れにくい品種「きんのめぐみ」の契約栽培を開始しています。契約量は年々拡大し、現在では生産組合の米出荷量の 1/4 を占めるまでとなっています。

また、令和元年からは、三井特産アグリフーズ(株)を通じた輸出への取組を開始、当初は 4.4ha からのスタートでしたが、令和 4 年では 12.4ha まで拡大しています。



(5) 地域内外の消費者等への情報伝達の取組

「(有)歌丸の里」では、毎年生産現場へ取引先の卸売業者や小売業者、実需者(料理店等)を招いて、生産者との交流を行っており、実際に米の生産状況を見て、体験してもらうことで、農業や生産組合に対する理解を深めるとともに、より良い関係性を築くことにつながっています。

また、地元小学生の田植え体験を企画し、農業への理解、地域の自然環境を保全していくことの大切さを伝えています。

(6) 人材育成活動

組合の中核的な生産者では、経営規模の拡大に伴い、雇用労力の導入をすすめています。現在、地区内外から4名を雇用しており、新たな担い手として地域に勢いをもたらしています。また、生産者の子弟が就農し後継者となるなど、地区の次代を担う若い生産者が徐々にではありますが増えてきております。「結い」の精神は彼らにも根付き、手の回っていない生産者のサポートに積極的に回ってくれています。

また、「(有)歌丸の里」では農林大学校の研修生の受け入れを行っています。

3. 活動の成果

歌丸の里生産組合は、流通販売を担う「(有)歌丸の里」、また、堆肥散布を担う「有機の里づくり組合 ゆうき」と連携しながら、土づくりを基本とし、地域の資源循環や、環境にやさしい米づくりを実践し、安全安心で良食味な米を生産してきました。

これからも、「結い」の精神で、地域の組合員が相互に助け合いながら、契約栽培の拡大など実需者から求められる「売れる」米づくり、堆肥による土づくりと特別栽培を基本とした環境への負荷を抑えた米づくりを継続し、自然環境、農家経営の両面で「持続可能」な地域の農業をプロデュースしていきたいと思えます。

